

# まえばし絹紀行

イコモスの勧告を受け注目されている「富岡製糸場と絹産業遺産群」は涼風と清らかな水がもたらした、いにしえからの群馬の産業。今月号は群馬県の絹産業と密接な関わりをもつ前橋のシルクストーリーを紡いでみる。

## シルクロードがもたらした 県都前橋の繁栄

日本の養蚕のはじまりは、「魏志倭人伝」に記述があることから、紀元前3世紀以前であることが分かっている。しかし、群馬でいつ養蚕がはじまったかは定かではない。養蚕が行われ、その後、養蚕技術が大陸から伝来してきた数年から数十年後に「上野国」に養蚕が発達していったと言われている。

正徳3年(1713)頃になると、上州は全国的に有力な養蚕地帯に成長。県内各地で市(いち)が盛んに開かれるようになった。生糸は中山道や下仁田街道などの陸路や利根川の船運により各地へ運ばれた。

前橋が生糸の売買を始めたのは、天和2年(1682)頃。毎月4、9の日には「市の日」と称し相場が立った。その後、安政5年(1858)の日米修好通商条約をきっかけに、横浜港が開港され生糸が輸出されるようになる頃には、広い養蚕地域を持つ前橋は生糸の生産高

## 生糸商人の力で 群馬県庁を前橋に

明治3年、前橋藩士である深沢雄象と速水堅曹は、スイス領事シベルの献策でイタリア製の器械を買入れ、現在の岩神町で器械製糸所を「大渡製糸所」として本格的に稼働させた。安政年間以降勢いをつけた前橋の生糸商人たちは、横浜に生糸直売所を開設するなどますます力をつけていった。前橋の街も繁栄。活気に満ちてい

を上げ、2都市間は文字通りのシルクロードとなった。

安政の開港後、生糸は外貨を稼ぐもっとも有力な輸出品となった。前橋の生糸は品質のよさでも注目を浴び、ヨーロッパでは、良質な生糸のことを「マエバシ(前橋)」と呼んでいたそう。さらに、輸出が盛んになったことで前橋の生糸の需要は拡大。器械化による生糸の量産を進めていった。これは不良品が出回るのを阻止する役目も果たした。



上毛倉庫:明治28年(1895)に現在の表町に3棟、大正6年(1917)に現在の若宮町に2棟建設された前橋市表町2丁目25-17

った。

## 先人がかなえた夢を 垣間見つつそぞろ歩き

前橋の生糸商人がどのくらい力があつたかを示す出来事がある。群馬県庁は明治9年12月に前橋市に設置されたが、その前に、高崎市に設置することが決まっていた。

これを覆したのは、繭糸仲買商人たちであつた。おもな人物は、繭糸商「三好善」主人で初代前橋市長を務めた下村善太郎。器械製糸「勝山社」の勝山宗三郎、前橋生糸改所頭取・勝山源三郎。「前橋を関東商工業の中心地にするためには、絶対に県庁が必要」と考え行動を起こした。彼らは資力十分。高額な建築費用の大半を彼らもつこと

で、明治9年12月に前橋市に仮県庁を設置する権限を勝ち取り、前橋城の一部と新築した官舎でスタートした。

現在も前橋市内には、絹産業にゆかりのあるスポットが点在している。その主なものを紹介しよう。

### ■旧関根住宅

採光と通風を良くするために、屋根の一部を切り取った赤城山麓に多くみられた養蚕農家の様式。1階には田の字に配置された4つの部屋と広い土間、ウマヤがあり、屋根裏は養蚕に使われていた。

### ■蚕糸記念館

明治45年6月11日に落成した国立原蚕種製造所前橋支所の本館として建てられた。その後、国立原蚕種製造所は、蚕業試験場、蚕糸試験場養蚕部などと改称され、研究機関統合のため昭和55年茨城県筑波

学園都市へ移転した。現在は、国から払い下げを受け、敷島公園ばら園内に移築保存されている。ルネサンス建築にみられるような玄関の柱、レンガ積み基礎、上下開閉式の窓など、明治末期の代表的な洋風建築様式を用いており、建築的価値も高い。

### ■上毛倉庫

上毛倉庫株式会社は明治29年の設立で、繭などの保管を目的としていた。イギリス積という積み方を採用したレンガ造の2階建て。現在も2号、3号倉庫は設立当時の面影を残している。42cmの厚さを持つ壁は、温度、湿度管理を行う役割も果たしている。同社は現在でも営業し、倉庫も繭などを保管

しているため、外観のみ観ることが可能。



■旧関根住宅:もともとは飯土井町にあつたが、前橋市が寄贈を受け、大室公園内に移築復元した。前橋市西大室町2545 ■蚕糸記念館:館内は一般公開されており、養蚕・製糸に関する用具・器械等が展示されている。前橋市敷島町262(敷島公園ばら園内) ■初代前橋市長 下村善太郎翁像:前橋市役所の北、県庁通りに面して立っている



参考文献:『絹の再発見』読売新聞社前橋支局編 文/吉井希有美

## 富岡製糸場と絹産業遺産群をめぐってみよう!

### 富岡製糸場

富岡市富岡1-1  
☎0274-64-0005(富岡市富岡製糸場課)  
大人500円、高大学生250円、小中学生150円



日本の輸出品の大半を占めていた生糸の品質向上と増産を図るため、明治政府が設置。フランスの技術を導入した日本初の器械製糸工場で、貴重な建物群が現存する。

### 田島弥平旧宅

伊勢崎市境島村字新地2243  
☎0270-63-3636(伊勢崎市文化財保護課)  
☎0270-61-5924(田島弥平旧宅案内所)



近代養蚕法「清涼育」の開発を行った田島弥平が建てた住居兼蚕室。棟上に換気設備(ヤグラ)を備えた瓦屋根二階建ての建物は、その後の養蚕農家建築の原型となった。

### 高山社跡

藤岡市高山竹之本237  
☎0274-23-5997(藤岡市文化財保護課)



蚕室の温度調整や換気をきめ細かく行う養蚕法「清温育」を完成した高山長五郎が設立した、養蚕教育機関「養蚕改良高山社」発祥の地。「清温育」は日本近代養蚕法の標準となった。

### 荒船風穴

甘楽郡下仁田町南野牧甲10690-1外  
☎0274-82-5345(下仁田町ふるさとセンター)



夏でも2℃前後の冷風が吹く風穴に作られた蚕種の貯蔵施設。国内最大級の同施設は、自然の冷気で蚕種の孵化を調整し、年複数回の養蚕を実現。繭の増産に貢献した。

上記写真提供/群馬県